

平成29年度 第1回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 古谷地区 ～



日時：平成29年11月16日（木）

午後5時30分～6時45分

場所：古谷市民センター

参加者

古谷地区 36名

出席者

市長、栗原副市長、危機管理監、総合政策部長、市民部長、こども未来部長
産業観光部長、都市計画部長、建設部長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・古谷保育園の建て替え	6
都市基盤・生活基盤	5	・古谷本郷地区内 J R 川越線ガード下の隧道設置 ・南古谷駅北口開設① ・古谷地区の防災 ・南古谷駅北口開設② ・ J R 川越線の複線化	2 3 9 11 15
地域社会・市民生活	1	・市道 4108 号線の交通規制	5
住民自治・行財政運営	2	・古谷市民センターの建て替え ・たばこ税の活用とオリンピック開催の影響	7 14
計	9		

意見交換（要約）

《古谷本郷地区内ＪＲ川越線ガード下の隧道設置》

意見 この川越線ガードの幅員は３メートルほどで車と歩行者が同時に通行することは困難であります。ガード前後の市道、ガード双方の見通しが悪く、車、歩行者ともに非常に危険な箇所となっております。とりわけガードを利用するグリーンフィールドの自治会、古谷本郷地区の児童・生徒の登下校の安全確保が当地区の大きな課題、心配事でございます。私どもは、子供たちの安全な通学のため、一日も早い隧道設置をお願いするものであります。

担当の皆様は、ＪＲとの協議等、設置に向けて努力されていることは地元市議会議員の先生から伺っておりますが、設置の時期等についての進捗をまずお伺いいたします。

建設部長 市道33号線という道路でございますが、おっしゃるとおり、ガード下の道路につきましては、大変狭くて危険な状態でございます。そういったことから平成23年、平成24年、平成27年にご要望をいただきまして、なかなかまだ整備に至っていないところでございますが、ご要望にあったとおり、歩行者空間の確保、児童の安全を最優先にしてですね、昨年度までに鉄道の管理者でありますＪＲ東日本と市道043号線の隧道設置の協議を進めてまいりました。今年度におきまして、隧道設置に係る詳細設計の協定をＪＲといたしまして、それからＪＲ東日本株式会社において設計作業を進めているところでございます。

今後の予定といたしましては、平成30年度に隧道接続するための道路の測量作業及びＪＲ東日本において詳細設計を実施し、平成31年度以降にも工事着手する予定でございます。また、隧道設置に係る工事期間は概ね２年を予定しております。隧道設置の工事完了後、隧道に接続する道路の工事も実施して完了する予定としておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

市長 今の点につきましては、今年度、設計のための予算を川越市でとりまして、ＪＲの側で今、設計をやっているところなんです。こういう鉄道絡みの事業をやる場合、基本的にはお金をこちらで出して、設計も工事も全て鉄道会社の関連会社がやるという、そういう仕組みになっている関係で、ＪＲの関連会社のほうで、今、設計を進めているというところなんです。その新しいトンネルにつながる道路を整備する予定です。というのは、直角にこの今あるガードの手前で、古尾谷神社側から来

たときに右へ曲がってトンネルを通過して、また左へ曲がって元の道に戻るといふ、
そういうルートであるということです、死角ができてしまうであろうと、新しくつくるト
ンネルに死角ができて、例えば痴漢とか悪い人がそこに潜んでいても周りからは見
えないという、そういう状況が生じては困るというので、古尾谷神社側からこの
ガードに入るのにやや左カーブしつつ入っていると思うんですが、それを真っすぐ
新しいトンネルに結びつくような、そういう道路を古尾谷神社側につくることによ
って、向こう側から道路から新しいトンネルの中が見通せるような、そういうつ
くりをしたいなというふうに考えています。今年度この設計をやった後、来年、道
路の測量等をして、予定としては再来年にも工事に着手するという、そういうよ
うなスケジュール感で今進めているところでございます。

《南古谷駅北口開設①》

意見 南古谷駅北口開設は、古谷地区の住民の長年の悲願でございます。この件に
つきましては、平成28年8月26日に古谷支会、南古谷支会、芳野支会等で陳情をさ
せていただいているところでございます。古谷地区の住民にとりましては、南古谷
駅北口開設は、通勤通学等の時間の短縮はもちろんのこと、踏切を横断しなくても
駅の利用が可能になりますので、周辺の危険回避にもつながるかと思っております。また、
駅南側の広場等、今まで南側に集中していた利用者、車両が分散され、駅利用者等
の安全性、利便性が高まると思われます。

一方、市の上位計画に位置づけられた地域核としての南古谷駅周辺及び市東部地
域発展の土地利用は、一部とはいえ、具体的な土地利用の変化により南古谷駅北口
の開設により、一部とはいえ具体的な土地利用の変化が起きますので、将来の具
体的な形が見え、南古谷駅北口周辺等の土地利用の明るい将来像が展望されると期
待しております。

市においても、現在、北口開設に伴う用地取得、駅前広場等の都市計画道路線
の変更手続を進められていることは承知しておりますが、そこで北口開設の時期とそ
の進捗についてお伺いいたします。

都市計画部長 そうしましたら、都市計画部のほうからご質問のありました現在の
進捗状況及び開設の予定時期について説明をさせていただきます。

まず、用地の取得状況というところでございますけれども、個別具体については

お話しすることはできないんですけれども、いわゆる用地取得してきたところにつきましては、市で管理するということでロープ杭等をつけて囲いをしているというような状況を行っておりますので、その辺りを見て今の進捗状況はどうかかなというところは見ていただければなというふうに思っております。いわゆる北口開設に向けて、ある程度順調に用地取得のほうは進んでいると考えているところでございます。

続いて、実際に駅前広場をつくるとなると都市計画決定をしないといけないと、駅前広場をどのようにつくっていくのかという範囲を決めないといけないということで、都市計画決定をするということになってございます。そちらにつきましては、昨月の10月に都市計画審議会、市の審議会を行いまして、引き続き地権者さんとはしっかり調整を行っていかないといけませんという意見はありますけれども、決定としては、そのまま今原案でお示ししているとおりの案で進んでいる状況でございまして、順調にいきましたら県の都市計画審議会も通りまして、年内に告示することになろうかと考えているところでございます。年内から年明けぐらいに告示をするという形で考えているところでございます。

続いて、実際に橋上駅舎をするということになりますと、JRと調整をしないといけないということになってございます。こちらについては、今年度、基本調査のほうを市のほうからJRのほうに発注させていただいておりまして、来年、基本設計を順調にいけば行って行って、再来年度、詳細設計、それから工事というような流れになりまして、市といたしましては、市制100周年、34年の完成を目指して、年度中の完成を目指してですね、鋭意取り組んでいくというような状況でございます。

市長 南古谷駅につきましては、北口開設にあわせてですね、南側の今ある駅前広場も若干改修をする予定でございます。もう少し広げるといいますか、使いやすいような形に変えるというそういう考えで、したがいまして、南側も北側も新しい駅前広場ができるという、そういう形になろうかと思えます。

意見 都市計画部長さんから今説明をいただきましたけれども、市制100年を目途に今いろいろ努力されている、そういうことでよろしいのでしょうか。そうしますと、平成34年ごろということですかね、時期的には大体。

都市計画部長 今からですと、34年度中というのが結構調整が順調にいけば、それ

ぐらいで、ただ、市制100周年、34年12月1日ということだと思っておりますので、できましたらそれに間に合うような調整はしたいなというふうに思っておりますけれども、ここはちょっと相手がある話ですので、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに思っているところでございます。

《市道4108号線の交通規制》

意見 交通規制をお願いしている道路は、古谷小、東中に通う児童・生徒の通学路であります。この道路の幅員は2メートルほどで、西側は水路で東側は水田でありまして、車両が通行いたしますと、道路幅員が狭いため道路を通学する児童・生徒は、水路や水田の片隅に避難せざるを得ない状況であり、通学する児童・生徒にとっては非常に危険な道路となっております。

このような状況のため市に交通規制をお願いしたところ、いわゆる時間制限の通学路につき通行ご遠慮くださいという看板を設置していただきました。市のほうでは、可能な範囲の対応をしていただいたということではありますが、このようないろいろ看板を設置してもらった中で非常に申し訳ないほどなのですが、一定の効果は確かにございましたが、通行禁止でないために心ないドライバーもおり、依然として通学路として危険な道路となっております。この道路で毎朝、通学する児童・生徒の安全のために立哨をされている方がおり、毎日のようにここで立哨をいただいているわけなのですが、ドライバーに通学路である旨を説明し通行遠慮に対する理解を求めると、罵声を浴びせ、通行するドライバーもいるとのことでございます。非常に残念な話でございます。ぜひとも通行禁止の善処をお願いし、進捗状況についてお伺いをいたします。

市民部長 私どもも、こちらの道路につきまして非常に幅員が狭いということは十分認識してございます。こちらにつきまして、現在、通学時間帯の交通規制につきまして2つの案を考えております。これにつきましては、具体的に申し上げますと、この道、ウチダ様宅の前の道、前から北東のほうに向かうんでしょうか、東側に向かいまして小さな五差路でしょうか、そこまでの間、あるいはもう少し短くしましてヨシカワ様のお宅のところの横から田んぼのところを通過して、あまり人家が周りがない、この2つ、そこと五差路までの間の2案で通学時間帯の規制をかけようかということで、今、鋭意検討しているところでございます。

これにつきまして、規制をかける方向で今検討を行っているわけですが、これにつきましてかけるとなりますと、沿道の住民の方々の判断あるいは同意というものが必要となります。これにつきましては、そちらの住民の方々のお車をその時間帯に乗られるときに許可証というか、そういうものが必要になりますので、その辺のところでは承かどうかの同意を必要とされますので、これを同意が得られ次第、川越警察署への規制実施に向けて依頼をしていきたいと、そのような形で考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

市長 いずれにしましても、道路通行に関する規制は警察、公安委員会の権限ですので、そちらのほうにいろんな条件を満たした上で強力に要望していくという、そういう方向になっています。

《古谷保育園の建て替え》

意見 古谷保育園の建てかえについては、平成26年、27年度の2度に陳情をさせていただきました。古谷保育園は、川越市立保育園としては一番古く、建築後46年を経過し、市内唯一の木造園舎で建物全体の老朽化が進み、改築費も年々増加しているとのことでございます。市議会での地元議員さんの質問や陳情している中で、目に見えて進展しないのは、現在地での建てかえが諸事情により難しいのではないかと、土地の問題がネックになっているのではないかと、そのように考えまして、地元の住民からさまざまな意見をお聞きする中で、移転用地について、ある方より移転用地として協力してもよいという申し出をいただきましたので、この土地について平成27年12月の陳情の際には移転候補地として提案をさせていただいたところがございます。

申し出のあった土地は、古谷地区のほぼ中央にあり、子供たちの送迎も問題ないと考えられます。川越市立保育園は、古谷地区はもとより南古谷地区、芳野地区の多くの方がその存続を願っているところがございます。安全で健やかな園生活を送れる古谷保育園の建てかえの進捗についてお伺いをいたします。

こども未来部長 古谷保育園につきましては、今お話がありましたように、老朽化が進んでいることは認識しております。また、これまでも地元の皆様や保護者の皆様に愛され、焼き芋会をはじめ皆様に参加をいただきまして、保育内容の充実ですとか温かい励ましがありまして感謝しているところがございます。

古谷保育園の建てかえについては、こちら内部においても検討を行っておりますが、長い間、結論が出せない状況が続いております。今後につきましては、地域ニーズ、地域の保育ニーズ、いわゆるその女性の社会参加の問題ですとか、待機児童の解消の問題、また社会情勢の変化、つまり実際、川越市においても出生数の減少が緩やかに続いているような状況もございまして、今後に関しては、川越市公共施設等総合管理計画つまり計画に基づいてですね、市立保育園と法人立の保育園の役割を考慮したあり方の検討を行いながら、年々老朽化が進む他の保育園の状況も踏まえましてですね、結論を出していきたいというふうに考えております。

《古谷市民センターの建て替え》

意見 センターの状況でございますが、市内2番目の古さで、多くの団体が利用する2階への階段が急なものとなっております。また、緊急時に使用する外階段に腐食があり、修繕したものとはいえ強度に不安があります。いわゆる老朽化が進んでいることに加え、建設当時の昭和46年の古谷の人口は5,300人ほどで、現在は1万800人で人口も2倍に増加し、極めて手狭な状況になっております。古谷市民センターでは、市内のほかの市民センターの模範となるべく、今後とも地域コミュニティ及び地域防災拠点としての機能のさらなる充実を図るため努力しているところでございます。そのためには、ぜひとも古谷市民センターの建てかえが急務と考えますが、その点、その進捗についてお聞きします。

また、東後楽会館も行く行くは閉鎖になるということも聞いております。そういった方の一つの集まる、そういった場所にこの古谷市民センターがそれにかわるものとして機能できる施設ができればいいなということもございます。そのような形で、その進捗状況等についてお聞きをしたいと思っております。

総合政策部長 ご案内のとおり、古谷市民センターでございますけれども、築40年を超えていまして市内の市民センターの中でも2番目の古さということで、我々も把握しているところでございます。

そうした中ですね、先ほどの保育園の話もございました。川越市のみならず全国的に公共施設が一時期にですね、一遍に整備されてきたという背景がございます。そうした中で、総合管理計画という話がございましたけれども、川越市全体の公共施設をどうしていくんだというところを今内部で議論しているところでございます。

その中におきましても、市民センターはやはり地域の皆様にとってかなり密着度の高い、ニーズも高い施設だというふうに認識しておりますので、今後の公共施設の整備のあり方を検討するに当たりましては、現在、市民センター、あとは小・中学校、また保育園を中心といたしまして個別に施設計画という形でつくろうということで、現在検討を進めております。

そういう中でですね、先ほど保育園の話もございましたけれども、あわせて検討を進めながらですね、この地域の古谷市民センターの改築のスケジュールも、今の段階ではまだ申し上げられるような具体的なものはございませんけれども、早急にお示しできるように進めてまいりたいというふうに考えております。

市長 市民センターの件につきましては、古谷より若干古い芳野の市民センターについてJAさんと一緒につくれないかという、そういう方向で3年ぐらいJAさんといろいろ、いろんな方面から話をしてきたんですけれども、1年ぐらい前に、やっぱりJAは難しいということになりまして、芳野は市が単体でつくるといふ、そういう方向で今順次進めているところです。この古谷についても、この場所はすぐ隣にJAさんがいてかなり広い敷地を持っているから、ここにつくる場合にやはりJAさんの土地と一体として使えるような、そういうようなやり方がいいのかなということで、こちらについてもJAさんと共同で建物をつくるような、そういう方向でまずは話を持っていこうかというような、そういうようなことも考えておりました、先ほど総合政策部長が言いましたけれども、古谷保育園についてもですね、一緒にするという、そういう選択肢もあり得るといふ、可能性としてはあり得るといふふうに今考えているところです。

意見 ただいま市長さんのほうから、JAとこの市民センターの同時、複合的な話が出ました。また保育園につきましても、そのようなことができればすばらしいことかなと、そんなふうに思っておりますが、実は、数年前からJAの組合長であるヤマダさんとそういった話が出まして、芳野地区では市民センターと一緒に合同の施設をつくるという話は伺っておったわけですが、古谷地域も広いこの敷地の中で、複合的なそういったJAと市民センター、また保育施設が同時にできるのであればすばらしいことかなと思いますので、ぜひご検討をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

《古谷地区の防災》

意見 10月22日の台風で高階地区の一部が浸水しましたがけれども、今後、川越市の防災を検討していく中で水害への対応をどうしていくのか。特に高階、南古谷、古谷、芳野、山田の一部も入るかもしれませんが、いわゆる昔から台風のたびに水が出る地域があります。最近こそ入間川の堤防ができた関係で、そういった洪水というのがなくなりましたけれども、最近では住宅ができるたびに、今まであった地形が土砂を入れるためにすっかり変わってしまいました。どこが低いところで、どこが高いところなのか、全くわからないような状況で、いざ台風等、ましては最近のようにゲリラ豪雨が発生した場合に、とんでもないところで被害が出てしまう。

そこで提案ですが、水場の各地区、南古谷、古谷、芳野、こういったところの長老方、年寄り、昔からこの地に住んでいる方の意見を聞いて、昔はここに水が出たんだよというようなことを参考にさせていただいて、防災上のマップ、あるいはどこへ避難したらいいのかということを経路に合わせて検討していただきたい。古谷の者は埼玉県立川越総合高校へ逃げていかなくちやならない。あそこへ行くまでの間に、多分行き着けない。そういったことで、やっぱり古谷は古谷に合った計画を立てていただかないと。どこが一番高いのか。私の住んでいるところは昔から堤防ができる前、水が出ていました。各家の軒先には船をみんなつり下げて持っていたんです。台風のたびに古谷のほうで水上生活をしていたわけです。それで、お金持ちの家というのかな、こういう家は比較的泥を高く盛ってあるんですが、それでも軒の下まで水が来ちゃいました。それで昔の古い家、今、建てかえちゃっていますからわからないんですが、昔の家は柱のところ、玄関の柱のところにはこれは何年の大水ですよ、何年の大水だと、ちゃんと跡が残ってしまっている。そのくらいの水場です。そういったところの方々の意見を取り入れて、今後の防災のほうに役立てていただきたいです。

私どもの相談役が昔からの写真を撮ったりして、例えばこのすぐそばに蔵根という地区があるんですが、ここに水が出たときの写真も持っています。古谷地区の文化団体の発表会のときに写真展をやってくれたりしています。そういったことで、今回水害のあった地区は、川越の中でも一番低いところなんだよという話は、相談役はよく知っています。

そういったことで、そういう方々の意見を十分聞いていただいて、古谷なりの防

災のことを計画していただけたらなと、そんなふうに思います。よろしく願いいたします。

危機管理監 ただいま昔のことをよく知っていらっしゃる方の意見を聞いてということで、ありがたい言葉をいただいたと思います。確かに今の水害の状況は過去のデータをもとに備えはしているところですが、先ほどのご案内のとおり、地形が変わっているであるとか、またはゲリラ豪雨があるとか、いろいろな状況がありまして、なかなか予測していたもの以上のものが来てしまうところがございます。川越市内は広くて全てに対してそういう備えをしなければいけないところですが、現状でなかなか全てが整っているわけではございません。

今後は、いただきましたご意見を参考に、そういう水害に十分に備えていきたいと考えております。こちらの芳野、古谷、南古谷地区につきましては、水田が広がる地帯でありまして、土地が低いのですが、幸いにして田んぼ等が十分にあります。この地区の田んぼは、豪雨のときには、遊水地みたいな貯留、雨を蓄えてくれる機能を現段階では十分に果たしていると思います。土地の開発が進むと、アスファルト化したりとか水を吸わない構造になりますので、そういうところは十分に注意していかなければならないと考えております。

いずれにいたしましても、今回の寺尾の水害のことを私どもも重く受けとめておりまして、今後、十分に川越市内全域がこのようなことがないように備えていきたいと考えております。いろいろ皆様のお力もいただきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

市長 水害関係では、今おっしゃったように、今まで田んぼだったところが土盛りされて家が建つというような場所がいろんな地域であります。そうすると、今まで内水、地面に降った水がさっと来て、それで洪水や浸水が起こるというようなことがなかったようなところでも起こることが十分考えられますので、特にこの山田地区から川越の東部地域一帯に関して、もう一回その内水についての検討もしなければならぬのかなというふうに思っています。

それから、もう一つ、これはなるべく早急にしなければならないと思うのは、嵐のときに避難準備情報とか避難勧告であるとか避難命令とか、そういうのを出すわけですが、今ある手段としては防災無線とあとは今実際にやっているのは自治会長さんのほうに連絡をして、それを伝達してもらおうというやり方をやっております。

ますが、防災無線というのは雨がざあざあ降っているときや、風がびゅうびゅう吹いているときはほとんど機能しません。それを何とか、そういう状況の中で、もちろんそういうふうになる前に、なるべく早目に避難情報を流すということは必要だとは思いますが、そうはいつでも現実には嵐が来てしまった状況の中でどうやって情報を伝達するかというのは、早急に新しい方法を考え出さなければいけないと思います。今回も夜ですね、名細地区について小畔川が氾濫危険水域にいくかもしれないという情報があつて、それをどうやって皆さんに知らせるのかとやはり防災無線しか基本的にはないわけですから、それで伝わるのかという思いがありまして、今回はそこまで向こうの地域にはいかなかったんですけれども、そういうようなことが今の考えている大きな課題だなというふうに思っています。その辺については特にこの古谷地域、南古谷地域は、荒川があるということで大きな水害の可能性のある地域でございますので、そういう地域に限って何らかの方法で伝達する方法をつくっておかなければならないというふうに思っております。

《南古谷駅北口の開設②》

意見 私は古谷自治会の相談役ということでお世話になっております。

私の質問は、南古谷駅の北口の開設についてです。20年前にはもうマスタープランというか、北口のあれが区画整理事業としてやるというプランがありました。そのときもほとんどマスタープラン、図面はできていました。そういうのを私は見ているんだけど、そのときは国道16号まで小中居寄りの排水路のところへ国道16号から南古谷駅まで真っすぐ接続する道路が予定されていまして。そうしたら、去年の説明会では、今、鉄塔があるところの通称イズミ道路と私どもは申しておりますが、それを拡幅して、以前の計画路線は廃止だと、こういう説明がありました。水路敷の都市計画路線でやらないで、イズミ道路のところを広げるんだと、こういう話になったんだね。それなら、その挟んで西側に農道が同じあれであるんですね。だから、百年の計で考えれば、2本、右と左側、水路を挟んで、その水路の上に東電の鉄塔が建っているの、それを真ん中にして、あそこの北口のその辺のどういうふうにするのかわかりませんが、北口の広場のところへ接続したらばというふうに考えているんですよ。

いずれにしても、そういう道路ができたりすれば、あの田んぼはもう開発される

おそれは間違いない。今ちっとも家がないんだから、高圧線が通っているところを、水路を真ん中にして両側に通す。イズミ道路を広げるんじゃなく、広げても構わないけど、西側の農道を拡幅すれば田園都市の美観としてもすばらしいんじゃないかなというふうに考えています。この辺をご検討いただければと思っております。よろしくをお願いします。

この話は、説明会なしでこういうふうになりましたと、こういう話ですからね。それで、自分は片側2車線で、そのぐらいの道路をこれからはつくらなきゃだめだと言ったら、国道16号が片側2車線で3万台、1日通っていると。そんな必要はないんだと、こういう説明をして、もう聞く耳を持たないんだから、市役所のほうは、いや、検討しますとかね、そのぐらいな配慮をしてもらいたいんだよね。

都市計画部長 都市計画道路の変更につきましては、長期無着手ということで、長年、都市計画道路が完成しないということで見直し作業を進めておりまして、順次、見直しの発表を行っております。

こちらについては、現在の交通状況、将来人口が減っていくということも見据えながらの交通量の状況、それから、まず基本として新しい道路に多大な投資をしていくことがなかなか難しいということで、現在ある道路を生かした形で整備をしていこうという、その観点から見直しを進めているというような状況でございます。

今回の南古谷の道路につきましては、駅前広場という、北口開設というところを契機といたしまして、若干田んぼの中を突き抜けているような都市計画道路という部分についても見直していかないといけないということで作業をさせていただいているところでございます。かといって、市街地の部分につきましては、なかなか新しいところに線を引くという部分については、新たな地権者さんと相談、交渉、調整をしないといけないというところについては、非常に厳しい部分があるというところでございます。そこについては現在の都市計画道路が決まっておりますので、そこで建築制限等もかかっているという状況でございます。ある程度そういった状況もあるということをおわかっていただいて購入されている。これからも丁寧に説明していかないといけないと認識しておりますけれども、そういう状況でありますから、そこは生かしていくという形になりますけれども、その後の田んぼのところにつきましては、現道を生かす形で線のほうを設けさせていただいているというような状況でございます。

鉄塔を挟んで道路をつくったらいんじゃないかというお話でございますけれども、現状の交通量、それから将来の交通量というものを考えていきますと、片側2車線というものについては、申しわけないんですけれども、必要ないのかなというふうに考えているところでございます。そうした中で現道を生かして一番効率的な整備、一番早く整備できる状況、方法は何なのかということで、今回の都市計画決定というのはさせていただいております。そのため東側に拡幅するという形で今は計画を決定していくという流れになっているというところでございます。

市長 今の件について、お気持ちはよくわかります。私も、できるんだったらゆとりのある道路をつくりたいという、そういう考えは持っております。今、落合橋のたもとから芳野台の工業団地のほうに延ばすあの道路を、私が就任してからいわゆる北環状から先の東環状に該当する道路を県がなかなかやってくれないから、だったら市でやっちゃおうよということで建設部長と話をしていたときに、私は、片側2車線、4車線の道路をつくろうというふうに言ったんですが、過去の交通量調査とか予測等から考えると、4車線をつくと無駄な道路をつくったということであるんな方面から責められるというか、そういうようなこともあるよというようにこともあってですね、今、2車線でずっと延ばしているところですけども、今回ご意見いただいた部分についても、やはり交通量、予測される交通量等から考えると、片側2車線、4車線の道路となると、もちろん財政上、お金の問題もございまして、予測される通行量から見て無駄なものをつくったというような評価をいろんな方面からされてしまうおそれがあるということも含めまして、ぜひご理解いただきたいというふうに思います。

意見 わかりました。いろいろ問題があるからやむを得ない点もあろうかもしれないけれども、やはり百年の計でいくと、そのくらいのことは当たり前だと、この間、去年か、名古屋へ行ったけどね、まあすばらしい、あれもやっぱり終戦後すぐやったというんだ、それに交通量が少ないんだから要らないというけどね、ゆっくり自動車がゆっくり走るの、狭い道を目いっぱい走らせるのは能じゃないんだよ。

市長 おっしゃることはよくわかりますよ。私もそのさっき言った道路、片側2車線と言ったときに、交通量がもし少なかったら、1車線並木にしちゃったっていいんじゃないかと、そういうことを建設部長と議論したんですが、やっぱりいろいろそういう現実的な問題もございまして2車線にしたという、そういう経緯もございま

す。大変申しわけございません。

《たばこ税の活用とオリンピック開催の影響》

意見 この9月ですか、この市民センターの内外でたばこが禁煙になりました。灰皿の撤去があったんですね。私も50年来たばこを吸っていましたが、ここでやめました。たばこを吸っている人にしてみればね、多額の地方税というのか、川越市のほうに多分20億強落ちているんじゃないかなと思うんですよ。その20億強のお金がどういうところに使われているのか、もっとPRしてあげないと、たばこを吸っている人に対して大変申しわけないと。ありがたい話なんでね、今時20億稼ぐなんていったら、たばこぐらいしか稼ぐ道がないわけ。ぜひ、何らかの形でもって、こういった方面に使われているんですよという広報をしていただきたい。健康によくない、そっちばかりPRされるんだけれども、ぜひね、反対のほうのことにも耳を傾けていただきたいと。

また、川越では、オリンピックでゴルフが開催されます。この霞ヶ関カンツリーの周りの笠幡駅辺の整備だとか、あるいは取りつけ道路だとか、こういったものの整備が行われていますけれども、この辺について川越市にとってどんないい影響が出るのかなと、ゴルフが開催されることによる川越市民の利益というか、この辺について市長さんからお話を承ればと、そんなふうに思います。よろしく願います。

市長 たばこにつきましては、たばこ税が市において活用されているというようなPRはぜひしたいというふうに思います。

それとオリンピック関係ではですね、どういう効果が期待できるのかといいますと、1つは、川越の名前が世界中に広がる、それによって川越に行ってみようかという、そういう観光客が増えるというのが一番ストレートに考えられることでございます。それだけではなくて、もちろん国内の人も、今回もトランプさんがゴルフをやってくれたということもあるんですけれども、知名度が高まることによって川越に対する関心が高まり、いろいろな面で川越に来るとかあるいは川越で商売をやるとか、そういうような方向で川越の活性化に極めて役に立ってくれるであろうと、そんな方向で見えております。

意見 今、オリンピックの話が出ましたが、オリンピックが川越市でゴルフをやる

となると、川越市が警備をやらされるんじゃないかと、その金を川越市が出せなんて言っているという話でね、川越市では出すんですか、その警備費用5,000万ぐらいかかるんだって。

市長 警備は警察の仕事ですから、川越がそういう方面ではタッチはないと思います。今考えられるのはですね、いろいろ道案内とかそういうもののボランティアを大勢市民から募って出していかなければならないのかなという点があります。ゴルフ場の中で動くボランティアではなくて、外で交通整理の協力をするとか、道案内をするとか、そういうことは必要であろうというふうに考えています。

それと費用の点についてはですね、人員のギャラリーの輸送について、駅、電車で駅まで来て、駅からバスで霞ヶ関カンツリーまで運ぶということになるんですけども、それに関してはまだほとんど具体的な計画がオリンピック組織委員会等でも議論されていなくてですね、これからの部分なんですけど、そういう中で担当から報告を受けたところでは、場合によってはそれは地元の責任でやってほしいなというような、そういう虫のいいというか、大変こちらとしては困った意見が組織委員会のほうから出ているかのようにも聞いていますけれども、それは方向性として、今さらそんなことは決められないというふうに思っていますので、やっぱり協力して自治体とそれから組織委員会と国と都が協力してやっていかなければならない部分であることは間違いのないわけですから、そんなに私は市がお金を負担させられることを心配はしておりません。

《JR川越線の複線化》

意見 実は、南古谷駅の北口の開設は、進捗が進んでいるということでございますが、ぜひ複線化ということで、市のほうでもお考えをいただければ非常にありがたいと思っておりますが、実は今月8日には、南古谷の支会長、副支会長、また芳野地区の支会長、副支会長、古谷では支会長とともにJRの埼玉県本部へ行きまして、お願いに行っていました。

用地の確保につきましては、JRは恐らく出してくれないと思いますので、市のほうでぜひご協力をいただきたいと思いますと思いますが、その際には、今、北口開設に伴って道路整備も方向性が見えてきたというふうに思っております。川越警察署から南古谷駅の北口に向かう議定線はありますが、大中居の議定線につきましては、平成

5年から工事を進めましてちょうど20年振りに完成した市道が議定線に変更されたと、それに結びつけて南古谷から国道16号のほうに拡張されるということでございますが、現在のイズミ道路の東側に離れたところに議定線があります。でも、それを利用することでは経費も非常に高くつくし、今のイズミ道路を拡張して、できれば将来的には伊佐沼周辺の整備、あるいは運動公園に向かう道路がつながれば、川越東部は朝日は一番先に当たるわけですが、ようやく日の目が見えてくるのかなど、そんなふうに感じますので、総合的な整備をよろしくお願ひしたいと思っております。

市民部長 ただいまのはご要望でよろしいでしょうか。

意見 はい。

市長 本日は、いろいろ大変貴重なご意見、ご要望を頂戴しまして、ありがとうございます。

前から申し上げておりますが、高階の新河岸駅がこの12月で一つの区切りを迎えますので、次は南古谷駅の北口ということで、これから先、この地域にかかわるこの課題をしっかりと進めていきたいというふうに考えております。今お話に出ましたように、道路的には芳野台の工業団地のほうまでスムーズに行けるような、そういう工夫をしまして、こちら側のさらなる活性化につなげていきたいというふうにも思っておりますので、ぜひご理解いただきたいというふうに思います。

本日は、本当にありがとうございました。